

授業科目名	染色基礎実習 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染織の基本を理解する。染色の基本的な種類の染色手順を理解しできるようになる。		
授業概要	ろうけつ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色の手順を理解できるようになる。ろうけつ染、絞り染、型染めなど着物に使われる基本的な染色技法が染められるようになる。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本ができるようになる。 ○ろうけつ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○染料の色の合わせ方ができるようになる。 ○技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。		
授業計画	染色基礎 ローケツ染め 浴衣制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（7 5 点） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染織の基本を理解する。染色の基本的な種類の染色手順を理解しできるようになる。		
授業概要	ろうけつ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色の手順を理解できるようになる。ろうけつ染、絞り染、型染めなど着物に使われる基本的な染色技法が染められるようになる。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本ができるようになる。 ○ろうけつ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○染料の色の合わせ方ができるようになる。 ○技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。		
授業計画	浴衣制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（7 5 点） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 3		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染織の基本を理解する。染色の基本的な種類の染色手順を理解できるようになり、女性と男性の浴衣のデザインに違いや色目の違いを理解する。		
授業概要	ろうけつ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色の手順を理解できるようになる。ろうけつ染、絞り染、型染めなど着物に使われる基本的な染色技法が染められるようになる。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本ができるようになる。 ○ろうけつ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○染料の色の合わせ方ができるようになる。 ○技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。 ○女性と男性の浴衣のデザインに違いや色目の違いを理解する。		
授業計画	男子浴衣制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（7 5 点） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 4		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染織の基本を理解する。染色の基本的な種類の染色手順を理解できるようになり、女性と男性の浴衣のデザインに違いや色目の違いを理解する。		
授業概要	ろうけつ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色の手順を理解できるようになる。ろうけつ染、絞り染、型染めなど着物に使われる基本的な染色技法が染められるようになる。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本ができるようになる。 ○ろうけつ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○染料の色の合わせ方ができるようになる。 ○技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。 ○女性と男性の浴衣のデザインに違いや色目の違いを理解する。		
授業計画	男子浴衣制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（7 5 点） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 5		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染織の基本を理解する。染色の基本的な種類の染色手順を理解できるようになり、女性と男性の浴衣のデザインに違いや色目の違いを理解する。		
授業概要	ろうけつ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色の手順を理解できるようになる。ろうけつ染、絞り染、型染めなど着物に使われる基本的な染色技法が染められるようになる。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本ができるようになる。 ○ろうけつ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○染料の色の合わせ方ができるようになる。 ○技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。		
授業計画	てぬぐい制作 正倉院文様をモチーフにした小物制作 帯揚げ制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（7 5 点） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 6		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	
授業目的	染色の基本を理解する。友禅染の工程を一通り理解しできるようになる。		
授業概要	友禅染の基礎的な道具の扱い、基礎動作を理解しできるようになるため、細かな伝統的な和柄の下絵を使い糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業を行う。		
到達目標	友禅染の工程を理解する。基本的な技法を覚える。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 友禅染の工程の説明、筒の作成、先がね削り 第 2 回～5 回 糸目糊置き 第 6 回～10 回 彩色 第 11 回～13 回 糊伏せ 第 14 回 地入れ 第 15 回 引染め		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（60 点）、筆記テスト（15％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の 2 割までとする。		

授業科目名	染色基礎実習 7		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	絵羽の柄付けを理解し下絵から染色まで作業をおこなうことで、絵羽の着物の作り方の基本を理解する。		
授業概要	絵羽の柄付けを理解し、下絵から染色まで付下げ木綿きものを制作することで、2 年で行う絹の絵羽着物の作り方の基本を理解する。		
到達目標	○絵羽の着物の柄付けを理解する。 ○絵羽の着物の染める手順ができるようになる。。		
授業計画	付下げ木綿きもの制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10%）・授業態度×授業回数（15%） 課題提出（75 点） 100 点満点で60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	織物基礎実習 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	染織の基本を理解する。一人で一連の織物制作作業ができるようになる。		
授業概要	卓上機を使って、平織、綾織、朱子織の組織の理解するためにコースター製作を行う。		
到達目標	糸量計算、組織図理解、糸の扱い糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	三原組織 平織、綾織、朱子織の組織の理解、卓上機をつかって実際に織る。		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	織物基礎実習 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	染織の基本を理解する。一人で一連の織物制作作業ができるようになる。		
授業概要	卓上機を使って、四枚組織の組織織を選ぶ。組織の読み取りを理解するためにブックカバー制作を行う。		
到達目標	糸量計算、組織図理解、糸の扱い糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	ブックカバー制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	織物基礎実習 3		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	染織の基本を理解する。一人で一連の織物制作作業ができるようになる。		
授業概要	高機の作業工程を理解するために高機を使って、無地のショール制作を行う。		
到達目標	糸量計算、組織図理解、糸の扱い糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	ショール制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（60 点）、筆記テスト（15％） 100 点満点で60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	織物基礎実習 4		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	染織の基本を理解する。一人で一連の織物制作作業ができるようになる。		
授業概要	高機の作業工程の復習として高機を使って、縞や格子などを選び平織の基礎を修得するため帯揚げ制作を行う。		
到達目標	糸量計算、組織図理解、糸の扱い糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	帯揚げ制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（60 点）、筆記テスト（15％） 100 点満点で60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	織物基礎実習 5		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	4 単位（1 8 0 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	染織の基本を理解する。一人で一連の織物制作作業ができるようになる。		
授業概要	高機を使って、組織織などの技法を使い半幅帯制作を行う。		
到達目標	糸量計算、組織図理解、糸の扱い糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	半幅帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	文様実習 1 - 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	運筆テキスト 松・竹・梅文様テキスト
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を修得する。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	意図する線を美しく描ける技術を身につける。文様のぼかし方を修得する。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション・きものにおけるデザインの意味 第 2 回～4 回 運筆模写 第 5 回～8 回 友禅デザインコンペ課題制作 第 9 回～1 2 回 団扇のデザイン制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出物・理解度（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	文様実習 1 - 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	運筆テキスト 松・竹・梅文様テキスト
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を修得する。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	意図する線を美しく描ける技術を身につける。文様のぼかし方を修得する。		
授業計画	第 1 回～4 回 模写 第 5 回 ぼかし練習 第 6 回～9 回 松図制作 第 1 0 回～1 3 回 梅図制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出物・理解度（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	文様実習 1 - 3		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	運筆テキスト 松・竹・梅文様テキスト
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を修得する。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	意図する線を美しく描ける技術を身につける。文様のぼかし方を修得する。		
授業計画	第 1 回～ 4 回 竹図制作 第 5 回～ 8 回 複合松竹梅創作図 第 9 回～ 1 3 回 進級和柄創作テスト		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出物・理解度（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	和裁基礎実習 1－1		
学年・年次	着物科・着物染織科 1年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	大裁女物単衣長着（1）木綿仕立て（浴衣） （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な着物の構造がわかるようになる。		
授業概要	和裁の基礎を基礎練習、浴衣製作と段階的に行い、和裁の基礎動作の修得と着物の構造理解を実習を通して学ぶ。		
到達目標	1. 手縫いの基礎縫いができる。 2. 縫製の動作を学ぶ。 3. 浴衣を縫うことができる。		
授業計画	第1回 運針練習 第2回～3回 懸張器袋制作 第4回～7回 浴衣製作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（55点）課題の完成度（20点） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	和裁基礎実習 1 - 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	大裁女物単衣長着（1）木綿仕立て（浴衣） （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な着物の構造がわかるようになる。		
授業概要	和裁の基礎を基礎練習、浴衣製作と段階的に行い、和裁の基礎動作の修得と着物の構造理解を実習を通して学ぶ。		
到達目標	4. 手縫いの基礎縫いができる。 5. 縫製の動作を学ぶ。 6. 浴衣を縫うことができる。		
授業計画	第 1 回 自分で染めた浴衣の裁断 第 2 回～2 2 回 浴衣制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（5 5 点）課題の完成度（2 0 点） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	和裁基礎実習 1 - 3		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	大裁女物単衣長着（1）木綿仕立て（浴衣） （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な着物の構造がわかるようになる。		
授業概要	和裁の基礎を基礎練習、浴衣製作と段階的に行い、和裁の基礎動作の修得と着物の構造理解を実習を通して学ぶ。		
到達目標	7. 手縫いの基礎縫いができる。 8. 縫製の動作を学ぶ。 9. 浴衣を縫うことができる。		
授業計画	第 1 回～2 回 付下げのスミウチ 第 3 回～8 回 絵羽浴衣制作 第 9 回～1 0 回 復習・筆記テスト		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 筆記テスト（1 5 %）課題提出（4 5 点）課題の完成度（1 5 点） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	グラフィックツール実習Ⅰ		
学年・年次	着物科・着物染織科 1年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	新子 絵里加	テキスト	プリント
授業目的	コンピュータを使って、デザインソフトの Adobe illustrator・Photoshop の知識・操作技術の取得により、グラフィックツールを用いた図案作成の基礎的能力を習得する。		
授業概要	図案・染織技術の習得と並行して段階的にデジタル技術の習得を行うとともに、デジタル上で和柄の描写についても習得する。		
到達目標	伝統的な文様を illustrator で描き、Photoshop で配色バリエーションを考察することで、着物のデキスタイルデザインの仕事及び表現について体系的な概念と技術を身につけること。また、着物づくりにおいてアナログとデジタルの協働の重要性を理解して、伝統に基づいた新たな価値の創造を目標とする。		
授業計画	第1回 オリエンテーション・授業概要説明、illustrator・Photoshop のインストール 第2回 PCに慣れる① 基礎知識・操作・メール・共有フォルダ設定 第3回～6回 illustrator 基礎 縞・格子・幾何学文様を描く① 幾何学文様を描く②、ペンツール曲線使いで紋を描く 第7回 校外学習 奈良墨・奈良晒の企業見学（奈良市内） 第8回～9回 PCに慣れる② illustrator レポート作成 Photoshop 写真補正（色調補正・レタッチ） 第10回～12回 古典文様に学ぶ 正倉院文様を帯図案として描く Illustrator 図案を描く Photoshop 配色バリエーション作成 第13回 illustrator 応用 スウォッチで古典文様を描く 第14回 課外学習 プリント染加工等の企業見学（京都市内） 第15回～19回 京友禅（染め表現）を描く illustrator 糸目戦を描く Photoshop 染め表現：糸目・ボカシなど、配色 第20回 合評、まとめ		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技習得度（35％）、課題提出物完成度（40％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	色彩学 I		
学年・年次	着物科・着物染織科 1 年次	単位数	1 単位（30 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	能口 様子	テキスト	きものカラーコーディネート ト 199 カラーカード
授業目的	色彩の基礎知識（色彩検定3級レベル）を理解する。着物と色彩の重要性を理解する。配色技法の基本と活用を学び、着物制作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解する。		
授業概要	着物のデザインやコーディネートに活用できるよう、テキスト・演習を通して色彩の基礎を理解する。		
到達目標	色彩の基礎知識を理解する。 色彩の基礎知識を活用して、表現力を広げ、着物の製作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解する。		
授業計画	第1回 色彩の基礎／色の表示 色の分類／三属性とPCCS 第2回 色彩の基礎／トーン／光と色 第3回 色彩の基礎／色の混色 第4回 色彩の基礎／色彩心理 第5回 色彩の基礎／配色調和／配色の基本 第6回 色彩の基礎／配色の基本的な技法 第7回 色彩の基礎／配色イメージ 第8回 色彩の基礎／色名／前期試験		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 筆記試験（40％）、課題提出（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	復習：学習した項目を再度復習しておくこと		

授業科目名	色彩学Ⅱ		
学年・年次	着物科・着物染織科 1年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	能口 祥子	テキスト	きものカラーコーディネート AFT色彩検定3級テキスト 199カラーカード
授業目的	色彩の基礎知識（色彩検定3級レベル）を理解する。着物と色彩の重要性を理解する。配色技法の基本と活用を学び、着物制作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解し活用できるようになる。		
授業概要	着物のデザインやコーディネートに活用できるよう、テキスト・演習を通して色彩の基礎を理解する。		
到達目標	色彩の基礎知識を理解する。 色彩の基礎知識を活用して、感性を広げ、着物の製作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解する。 パーソナルカラーの基本を学び、振袖や着物のオリジナルデザインができるようになる。		
授業計画	第1回 試験対策／ファッション／インテリア 第2回 試験対策／眼の仕組み／対策テスト 第3回 試験対策／対策テスト 第4回 色とデザイン／パーソナルカラー 第5回 色とデザイン／パーソナルカラー 第6回 色とデザイン／パーソナルカラー 第7回 色とデザイン／振袖カラーデザイン企画		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 筆記試験（30％）、課題提出（25％）、課題出来栄（20％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	復習：学習した項目をAFTのテキストで確認して読んでおくこと		

授業科目名	着付け I		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1 年次	単位数	1 単位（30 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着付けを知る。		
授業概要	着物の着付け経験がないことを前提に、基礎（浴衣）から段階的に着物を着れるように実習を行う。また、文化祭などの機会を活用し、簡単な他装に取り組む。		
到達目標	着物の着方と帯結びができるようになり、簡単な着付けができるようになる。		
授業計画	第 1 回 浴衣の自装と半巾帯基本の結び方 その 1 第 2 回 浴衣の自装と半巾帯基本の結び方 その 2 第 3 回 浴衣の自装と半巾帯アレンジの結び方 第 4 回 男性浴衣の着せ方と各帯のしめ型 第 5 回 浴衣の他装と半巾帯基本の結び方復習 第 6 回 浴衣の他装と半巾帯のアレンジ 第 7 回 長襦袢と着物の自装 第 8 回 着物の自装と名古屋帯の結び方 その 1 第 9 回 文化祭 他装実践演習 第 10 回 文化祭 他装実践演習 第 11 回 着物の自装と名古屋帯の結び方 その 2 第 12 回 着物の自装 喪服の着方 第 13 回 着物の自装と名古屋帯の結び方復習 第 14 回 着物の自装 実技テスト 第 15 回 着物の自装と袋帯基本の結び方 その 1 第 16 回 長襦袢と着物の他装 第 17 回 着物と名古屋帯の他装		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第 10 回実技授業参加で着付け技能士 2 級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	着付け I（男子）		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1 年次	単位数	1 単位（30 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着付けを知る。		
授業概要	着物の着付け経験がないことを前提に、基礎（浴衣）から段階的に着物を着れるように実習を行う。また、文化祭などの機会を活用し、簡単な他装に取り組む。		
到達目標	着物の着方と帯結びができるようになり、簡単な着付けができるようになる。		
授業計画	第 1 回 浴衣の自装と角帯のしめ方 第 2 回 浴衣の自装と角帯のしめ方 第 3 回 女性浴衣の着せ方 第 4 回 女性浴衣の着せ方と半巾帯基本の結び方 その 1・その 2 第 5 回 女性浴衣の着せ方と半巾帯のアレンジ 第 6 回 長襦袢と着物の自装 第 7 回 長襦袢と着物と袴の自装 第 8 回 女性長襦袢と着物と袴の自装 第 9 回 文化祭 他装実践演習 第 10 回 文化祭 他装実践演習 第 11 回 女性着物と名古屋帯の他装 第 12 回 着物と袴の自装復習 第 13 回 着物と袴の自装 実技テスト 第 14 回 着物の自装 実技テスト 第 15 回 女性着物と名古屋帯の他装 第 16 回 女性着物と袋帯基本の結び方 その 1 第 17 回 自装か他装の復習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第 10 回実技授業参加で着付け技能士 2 級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	日本文化 I		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1 年次	単位数	1 単位（15 時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大内惣介、松下園甫 久保村正高	テキスト	プリント
授業目的	着物をより理解するために日本文化を様々な視点から学ぶ。		
授業概要	各専門講師より日本の文様、茶道・華道・風呂敷の包方などを演習や講義を通して学ぶ。		
到達目標	講義や演習をとおして日本の文化を様々な視点から理解する。		
授業計画	第 1 回 日本の文様① 第 2 回 日本の文様② 第 3 回 日本の文様③ 第 4 回 日本の文様④ 第 5 回 茶道① 第 6 回 茶道② 第 7 回 風呂敷① 第 8 回 風呂敷② 第 9 回 華道① 第 10 回 華道②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（75％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	きもの学Ⅰ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1年次	単位数	1単位（21時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	きものの基本 きもののたのしみ
授業目的	着物全般の種類や着こなしの基本、産地や文化、歴史に関する知識を学び、自らの専門と結びつけて学んだことを活かす。		
授業概要	きもの文化検定の教本を活用し、講義形式で学び、きもの文化検定の合格を目指す。		
到達目標	きもの文化検定4級以上の合格		
授業計画	第1回 きものを着る時に必要な物・きものの種類と着こなし 第2回 きものを着る時に必要な物・きものの種類と着こなし 第3回 基本的な帯の種類・小物、羽織とコート、男のきもの、浴衣、各部の名称 第4回 基本的な帯の種類・小物、羽織とコート、男のきもの、浴衣、各部の名称 第5回 子供のきもの、きものの主な産地と特徴、きものの歴史、基本的なコーディネート 第6回 子供のきもの、きものの主な産地と特徴、きものの歴史、基本的なコーディネート 第7回 素材と夏物、日本の色、きものの文様、自信がつく美しい立ち振る舞い・通過儀礼と装い 第8回 素材と夏物、日本の色、きものの文様、自信がつく美しい立ち振る舞い・通過儀礼と装い 第9回 紋、収納と手入れ たたみ方、きもの文化検定試験対策 第10回 紋、収納と手入れ たたみ方、きもの文化検定試験対策 第11回 きもの文化検定試験対策 第12回 きもの文化検定試験対策		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 筆記テスト（50％）・模擬テスト（15％）・課題提出（10％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	染色専門実習 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の訪問着もしくは振袖の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	訪問着・振袖制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の訪問着もしくは振袖の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	訪問着・振袖制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 3		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の訪問着もしくは振袖の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	訪問着・振袖制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 4		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の訪問着もしくは振袖の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	訪問着・振袖制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 5		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の訪問着もしくは振袖の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	訪問着・振袖制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 6		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の名古屋帯の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 7		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の名古屋帯の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 8		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の名古屋帯の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 9		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の付下の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 10		
学年・年次	着物科・着物染織科 2年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の付下の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（60点）、筆記テスト（15％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	染色専門実習 1 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	基礎知識・基礎技術をもとに、友禅染で作品を制作する。		
授業概要	友禅染の付下の作品を、草稿から糸目糊置き・彩色・伏せ・地入れ・引き染めの一連の作業で作品制作を行う。		
到達目標	自ら作成した草稿を用いて友禅染で作品を制作するようになる。着物の柄合わせの仕組みについて理解する。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中の内容はノートにとり、見返すことができるようにしておくこと。 実技については、授業中、動画撮影で記録してもよいこととする。		

授業科目名	織物専門実習 1		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	4 単位（1 8 0 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	着用できる名古屋帯を織れるようになる。		
授業概要	高機・ドラム式整経を用いて名古屋帯を制作する。課題による柄位置のポイント・糸使い・箆目の変更による出来上がりの変化を学ぶ。		
到達目標	名古屋帯の糸量計算、組織図理解ができるようになる。組織設計・糸の扱い・糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2割までとする。		

授業科目名	織物専門実習 2		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	5 単位（2 2 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	亀山 知彦	テキスト	手織りの実技工房
授業目的	着用できる着尺を織れるようになる。		
授業概要	高機・ドラム式整経を用いて着尺を制作する。課題による柄位置のポイント・糸使い・箆目の変更による出来上がりの変化を学ぶ。		
到達目標	着尺の糸量計算、組織図理解ができるようになる。組織設計・糸の扱い・糸染めから織り上げまで一連の流れができるようになる。		
授業計画	着尺制作		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 課題提出（6 0 点）、筆記テスト（1 5 %） 1 0 0 点満点で6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業をうけるにあたって自分の作業時間を加味し、課題の提出日を逆算して時間を用意して課題提出日に必ず提出するようにすること。欠席は授業時間の2 割までとする。		

授業科目名	企業臨地実習		
学年・年次	着物科 2年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	大原 敏敬	テキスト	なし
授業目的	学んできた染織技術の社会での活用について経験するため、企業で実践的な職場体験をおこなう。		
授業概要	企業との締結した受け入れ期間に、企業での実践的な職場体験を行う。		
到達目標	学んできた染織技術の社会での活用について理解する。 社会で求められる職業人としてのスキルを理解する。		
授業計画	企業臨地実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（75点） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	毎日、企業での指導者に日報を提出すること。 終了後にまとめレポートを提出すること。 染色専門実習・織物専門実習のうち1単位をあてる。		

授業科目名	文様実習Ⅱ－１		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	課題文様草稿
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を活かして構図を考え複合的に組み合わせることができる技術を身に付ける。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	和文様を組み合わせ「複合和文様」を描くことができる技術を身に付ける。		
授業計画	第１回～５回 八重花のぼかし方（牡丹） 第６回～９回 友禅デザインコンペ制作 第１０回～１３回 乱菊の描き方、グラウンドぼかし		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出物・理解度（７５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	文様実習Ⅱ－２		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	課題文様草稿
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を活かして構図を考え複合的に組み合わせることができる技術を身に付ける。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	和文様を組み合わせ「複合和文様」を描くことができる技術を身に付ける。		
授業計画	第１回～７回 多種の花ぼかし 菊づくり 第８回～１１回 複合文様の描き方		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出物・理解度（７５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	文様実習Ⅱ－３		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	課題文様草稿
授業目的	手描きの伝統文様と図案の描き方と彩色の方法や文様のぼかし方を活かして構図を考え複合的に組み合わせることができる技術を身に付ける。		
授業概要	毛筆を使い手描きの伝統文様と図案の書き方と実習を通して学ぶ。		
到達目標	和文様を組み合わせ「複合和文様」を描くことができる技術を身に付ける。		
授業計画	第１回～４回 秋草の描き方 複合 第５回～８回 洋花の描き方 第９回～１４回 進級和柄応用提案図と原図		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出物・理解度（７５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出作品数は必須		

授業科目名	和裁専門実習Ⅱ－１		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	きものⅠ （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な仮絵羽・下絵羽ができるようになる。 着物や帯の構造がわかるようになる。		
授業概要	着物の染織に必要な下絵羽・仮絵羽ができるようになり、着物の構造理解を学ぶ。		
到達目標	下絵羽・仮絵羽ができるようになる。		
授業計画	第１回～５回 仮絵羽制作 第６回～１０回 下絵羽制作		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出（４５％）課題の完成度（１５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	和裁専門実習Ⅱ－２		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	きものⅠ （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な着物や帯の構造がわかるようになる。		
授業概要	単衣長着を実習で制作し着物の構造理解を学ぶ。		
到達目標	単衣長着を縫うことができる。		
授業計画	第１回～１１回 単衣長着制作		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出（４５％）課題の完成度（１５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	和裁専門実習Ⅱ－３		
学年・年次	着物科・着物染織科 ２年次	単位数	１単位（４５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	きものⅠ （大原和服専門学園）
授業目的	着物の染織をする上で必要な帯の構造がわかるようになる。		
授業概要	名古屋帯を実習で制作し着物・帯の構造理解を学ぶ。		
到達目標	名古屋帯を縫うことができる。		
授業計画	第１回～９回 名古屋帯制作		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 課題提出（４５％）課題の完成度（１５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	グラフィックツール実習 II		
学年・年次	着物科・着物染織科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	山崎 正人	テキスト	必要に応じて illustrator・Photoshop ハウツー書籍 解説サイト・YouTube 動画等
授業目的	Adobe illustrator・Photoshop で図案の描き方や配色方法を学び、グラフィックツールを用いたデザイン、図案作成の基礎的能力を習得する。		
授業概要	図案・染織技術の習得と並行して段階的にデジタル技術の習得を行うとともに、デジタル上で和柄の描写についても習得し、インクジェット着尺、吉祥カレンダー、着物ブランド企画等課題制作を行う。		
到達目標	伝統的な文様を illustrator で描き、Photoshop で配色バリエーションを考察することで、着物のデキスタイルデザインの仕事及び表現について体系的な概念と技術を身につける。そして、着物づくりにおいてアナログとデジタルの協働の重要性を理解して、求められるデザインを考えられるようになることを目標にしている。		
授業計画	第 1 回 ・授業概要説明、目指すところ、各課題説明等 第 2 回～7 回 Photoshop（図案をトレース描画し、それと別に配色も制作）図案をトレース、配色、提出 第 8 回～11 回 Ai:Ps：インクジェット着尺プリント デザイン制作 企画書、デザイン計画書、ラフスケッチ制作 第 12 回～15 回 Ai:Ps：吉祥カレンダー制作、デザイン計画、ラフスケッチ制作 第 16 回～19 回 Ai:Ps：自身のブランド（架空の）販促物デザイン制作 第 20 回 講義・筆記テスト		
評価方法	出席日数×授業時数（10%）・授業態度×授業回数（15%） 課題提出数（25%）、課題提出物完成度（25%）、筆記テスト（25%） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	提出期限を守る。提出日に間に合わない場合は講師に相談し、提出日を決める。		

授業科目名	プロダクトビジネス実習Ⅰ		
学年・年次	着物科・着物染織科 2年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	藤直晴	テキスト	なし
授業目的	学んだ染織技術を活用し、製造、販売までの流れを体験し、マーケットを意識したものづくりができるようになる。		
授業概要	マーケティングを学び、商品企画・販売計画を立て対面販売を円滑にできるようにトレーニングを行う。		
到達目標	商品企画・販売計画を考え、染織技術を活かした商品を作ることができる。販売に向けた展示、ディスプレイを考えインターネットサイトへの出品方法がわかる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 商品企画 第3回 素材、色彩、制作過程等計画 第4回 計画発表 第5回 ブランディング 第6回～11回 制作実習 第12回 奈良の空から出店 第13回 問題点の振り返り 第14回 商品企画プレゼンテーション 第15回 インターネットサイト出品 第16回 商品写真撮影 第17回～20回 商品企画プレゼンテーション		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 課題提出物（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点			

授業科目名	着付けⅡ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	他装ができるようになる。		
授業概要	着物の袋帯を中心に他装の着付けができるように実習をおこない、基礎からアレンジまで様々な帯結びができるようになる。		
到達目標	他装ができるようになり、様々な帯結びが結べるようになる。		
授業計画	第1回 着物の自装と名古屋帯・袋帯の復習 第2回 普段着着物の他装の復習 第3回 体型別補正と長襦袢・着物の他装 第4回 着物の他装と袋帯結び方 その1 第5回 着物の他装と袋帯結び方 その2 第6回 着物の他装と袋帯結び方 その3 第7回 着物の他装と袋帯結び方 その4 第8回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その1 伊達衿の使い方 第9回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その2 伊達衿の使い方 第10回 文化祭 他装実践演習 第11回 文化祭 他装実践演習 第12回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第13回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第14回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第15回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第16回 着物の他装 実技テスト 第17回 自装か他装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	着付けⅡ（男子）		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	他装ができるようになる。		
授業概要	着物の袋帯を中心に他装の着付けができるように実習をおこない、基礎からアレンジまで様々な帯結びができるようになる。		
到達目標	他装ができるようになり、様々な帯結びが結べるようになる。		
授業計画	第1回 着物の自装と各帯のしめ方・袴の着方の復習 第2回 普段着着物の他装の復習 第3回 体型別補正と長襦袢・着物の他装 第4回 着物の他装と袋帯結び方 その1 第5回 女性浴衣他装の復習 第6回 女性浴衣他装の復習と半巾帯アレンジ 第7回 着物の他装と袋帯結び方 その2 第8回 着物の他装と袋帯結び方 その3 第9回 着物の他装と袋帯結び方 その4 第10回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その1 伊達衿の使い方 第11回 文化祭 他装実践演習 第12回 文化祭 他装実践演習 第13回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その2 伊達衿の使い方 第14回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第15回 着物の他装 実技テスト 第16回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第17回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第18回 他装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	日本文化Ⅱ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（15時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	八木尚宏、松下園甫 岡本輸志、森本勇也 熊谷宝子	テキスト	プリント
授業目的	着物をより理解するために日本文化を様々な視点から学ぶ。		
授業概要	各専門講師より日本の文様、茶道・華道・風呂敷の包方などを演習や講義を通して学ぶ。		
到達目標	講義や演習をとおして日本の文化を様々な視点から理解する。		
授業計画	第1回 神社① 第2回 神社② 第3回 茶道① 第4回 陰陽五行 第5回 茶道② 第6回 家紋 第7回 華道① 第8回 華道② 第9回 平安装束① 第10回 平安装束②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	きもの学Ⅱ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（21時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大原敏敬・大原健嗣 石崎功	テキスト	きものの基本 きもののたのしみ
授業目的	きもの学Ⅰの知識をより専門的な学びを通して、着物をより深く理解する。		
授業概要	和服地、着物の流通、着物の管理等の専門的内容を講義形式で学ぶ		
到達目標	着物業界で働くための着物の専門知識を身に付ける。		
授業計画	第1回 和服地① 第2回 和服地② 第3回 和服地③ 第4回 和服地④ 第5回 和服地⑤ 第6回 和服地⑥ 第7回 着物の管理① 第8回 着物の管理② 第9回 着物の流通① 第10回 着物の流通② 第11回 時代テーマ① 第12回 時代テーマ②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） ・課題提出（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		